

狭山ニュータウン地区の資源（魅力）と課題

1 新たな交流や活躍の場づくり

狭山ニュータウン地区は、市内の他の地区と比べて人口減少や高齢化が進んでおり、地域の活力低下が生じています。新たな交流や活躍の場づくりによって、まちづくり活動を活性化させていくことが課題となっています。

(1) コミュニティ・地域活動

活かすべき資源（魅力）

- ・自治会等は、町丁目や団地単位で 18 団体が組織されています。
- ・自治会等は、地域におけるさまざまな課題の解決から行政との連携まで日常生活の幅広い領域をカバーし、地域コミュニティの形成に欠かすことのできない最も基礎的な活動団体です。
- ・南中学校区円卓会議をはじめ、地区内で精力的に活動する団体があり、防災、防犯、健康づくり、環境美化など多様な分野でまちづくり活動に取り組んでいます。
- ・公民館で学んだ人たち、特に女性たちがつながりを活かしながら、レクリエーション活動にとどまらず、子育てや地域活動に取り組んできた歴史があり、自主的・主体的にまちづくり活動に取り組む気風があります。

対応すべき課題

- ・自治会等の加入者が減少するとともに、役員のなり手が不足しており、組織の維持が課題となっています。また、地域活動に関わる住民の高齢化が進んでおり、活動の新たな担い手の育成が課題となっています。
- ・中学校区や小学校区、自治会等それぞれの単位で組織された地域活動団体が、多様な分野でまちづくり活動を展開していますが、活動分野や活動内容が重なり合っているものもあり、活動テーマに応じて連携して取り組むことで、より大きな効果が期待されます。
- ・「人が育つまち」であり続けるために、生涯学習やまちづくり活動等により培われてきた狭山ニュータウンらしさを継承する取組みが必要です。

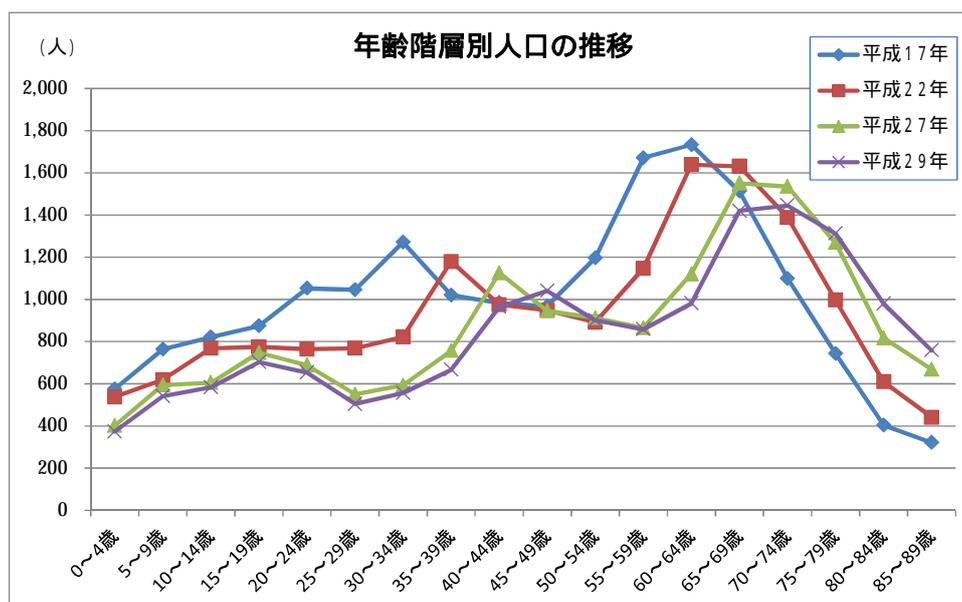
■ 地域活動団体の活動状況

子育て支援	趣味、交流活動	日常生活支援	高齢者支援	地域環境
自治会等				
子どもの見守り 子どもサロン	夏（七夕）まつり バスツアー ふれあいサロン 文化祭 ふれあいの集い クリスマス会		敬老のお祝い 会食会	防犯パトロール 安否確認 AED及び心肺蘇生訓練 消防訓練 公園清掃 ブルトップ回収
南中学校区円卓会議				
夏休み親子工作教室 夏休み絵画教室 南中学校生徒会との 交流会	コミュニティカフェ 陶器山元気ウォーキング		元気クラブ 健康講演会	花いっぱい運動 防犯パトロール ひたくり防止キャンペーン 避難所開設図上訓練 HUG訓練 防犯カメラの設置 公園清掃
民生委員・児童委員				
家庭の見守り支援		日常的な見守り活動 相談支援	見守り訪問活動 一人暮らし台帳登録調査 友愛訪問	自主防災組織 防災活動、防災訓練 （消火・救出救命・ 炊出し訓練等） 要支援者の安否確認・支 援
地区福祉委員会				
こども会育成 連絡協議会 市こ連ソフトボール大会 科学工作教室 ボウリング大会 ふれあい映画会 こども文化祭 新春こどもまつり	ふれあい広場	日常的な見守り活動	小地域ネットワーク活動 認知症サポーター養成講座 高齢者ふれあいの集い 高齢者親睦ツアー	小学校区地域 防犯ステーション 子どもの見守り活動 巡回パトロール等
老人クラブ				
教養講座の開催 健康増進運動			目くばり気くばり思 いやり運動	公園清掃
婦人会				
健康講座 健康料理教室 手芸教室			ボランティア活動	環境フォーラム エコ活動
青少年指導員会				
登下校の見守り	南第二小学校わいわいランド 南中学校わくわくフェスティバル			南第二小クリーン作戦
	南中学校区地域協議会 南中学校わくわくフェスティバル			あまの街道と陶器山 の自然を守る会 公園清掃

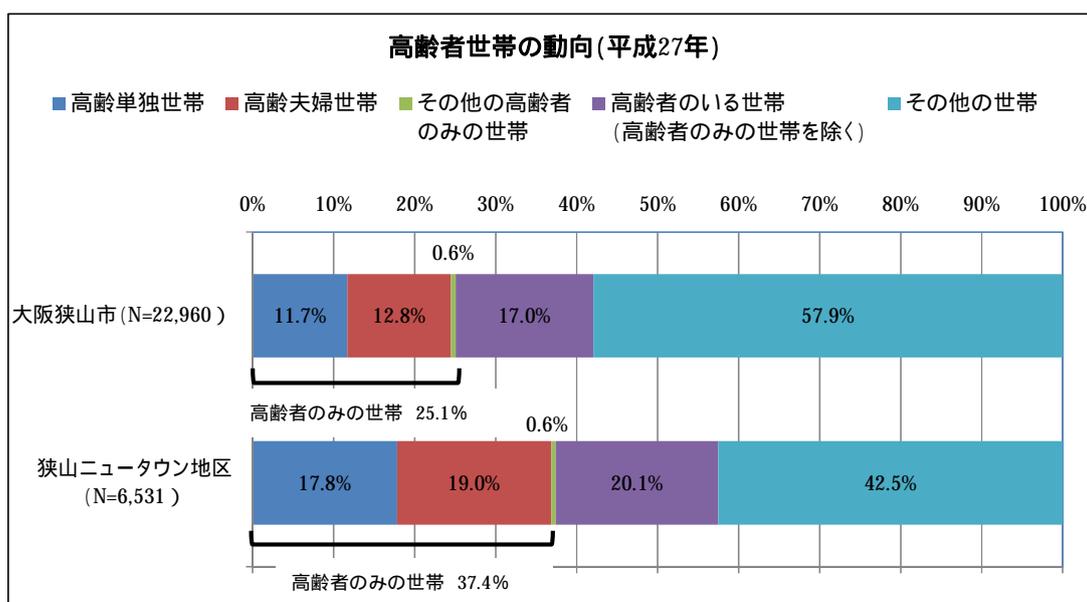
■狭山ニュータウン地区の人口

平成 17 年（2005 年）～平成 29 年（2017 年）

- ・狭山ニュータウン地区の人口は平成 17 年（2005 年）から平成 27 年（2015 年）の 10 年間で 2,310 人減少しており、高齢化率は 37.1%と本市平均 26.8%より 10.3 ポイント高いなど、他の地区と比べて人口減少や高齢化が進んでいます。
- ・年齢階層別にみると、若い世代の流出が続いています。世帯分離に伴う高齢者世帯や、一人暮らし高齢者の増加によって地域の活力低下が生じています。



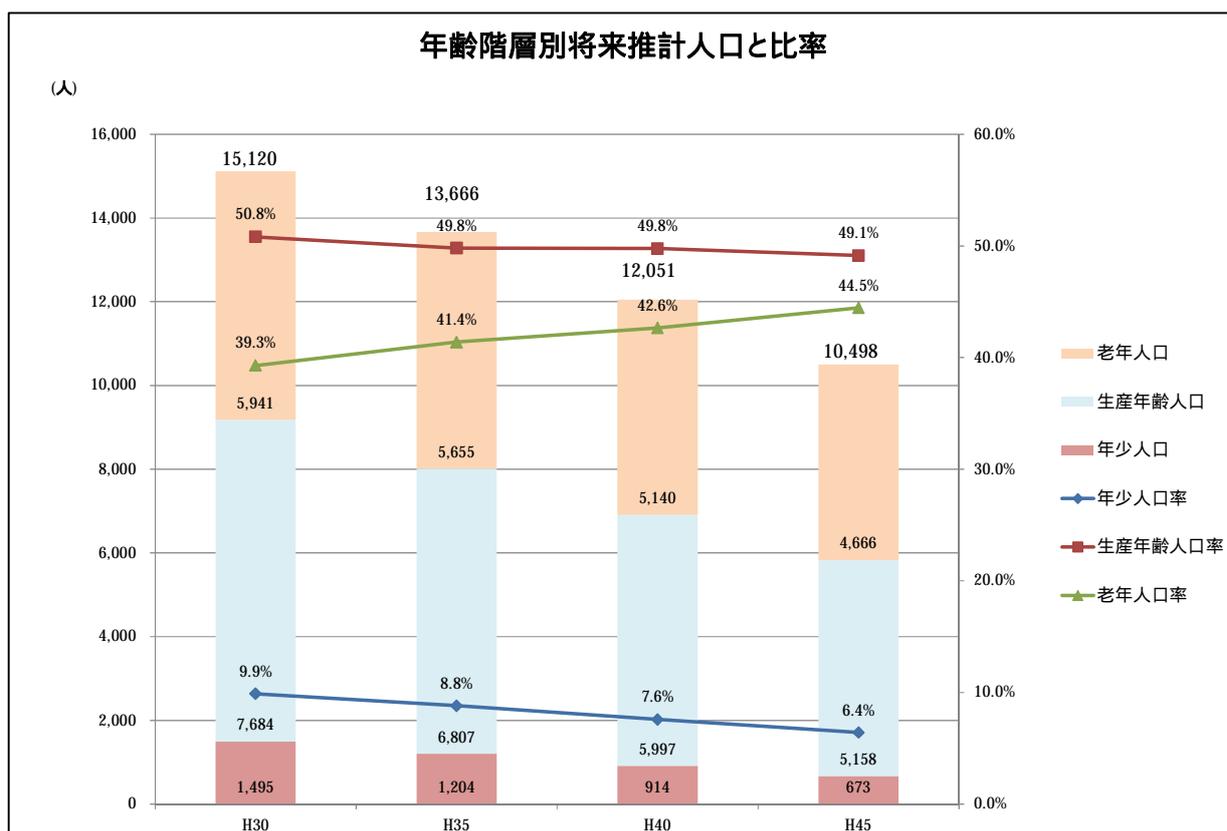
出典：住民基本台帳人口（各年 9 月末現在）



出典：国勢調査

平成 30 年 (2018 年) ~ 平成 40 年 (2028 年) (推計)

- ・狭山ニュータウン地区の人口は平成 30 年 (2018 年) から平成 40 年 (2028 年) の 10 年間で 3,069 人減少し、高齢化率は 39.3% から 42.6% になると推計しており、人口減少や高齢化が進行すると見込んでいます。将来的な人口減少や高齢化への対応が求められます。



平成 30 年の住民基本台帳による狭山ニュータウン地区の人口を基本として、国立社会保障・人口問題研究所が平成 30 年に公表している生残率を用いて死亡者数を推計し、平成 25 年～30 年の狭山ニュータウン地区における人口動向の実績から移動率を算出して推計に用いています。

出生者数の推計は平成 26 年～30 年の住民基本台帳における 0 歳児人口を各年の出生者数と仮定し、その年次における 15～49 歳女性人口に対する比率を出生率として仮定しています。出生の男女比は全国平均の概数を取り 1.05 で設定しています。

これらの動向が推計期間において同様であると仮定して推計しています。

(2) 周辺地域

活かすべき資源（魅力）

- ・市域西部と陶器山を含む泉北丘陵の一带では、5世紀以降須恵器を焼く窯が多数造られました。須恵器生産は市域で広く行われ、市内各地で窯跡が見つっています。
- ・あまの街道沿いには樹林地が残り、地区内の貴重な自然環境となっています。
- ・大野ぶどうの生産直売農家があり、販売シーズンには市内外から多くの人がぶどうを買い求めに訪れます。
- ・大野地区や今熊地区等では住宅開発が進んでおり、若い世代の流入により人口が増えています。



（あまの街道）



（大野ぶどう）

対応すべき課題

- ・緑地の計画的な管理や一定の緑地の確保が必要です。
- ・住宅開発や後継者不足により農地が減少しています。
- ・新たに開発された住宅地では自治会等が結成されていない地区もあり、今後の地域コミュニティの形成に懸念があります。

2 若い世代に選ばれる子育て環境

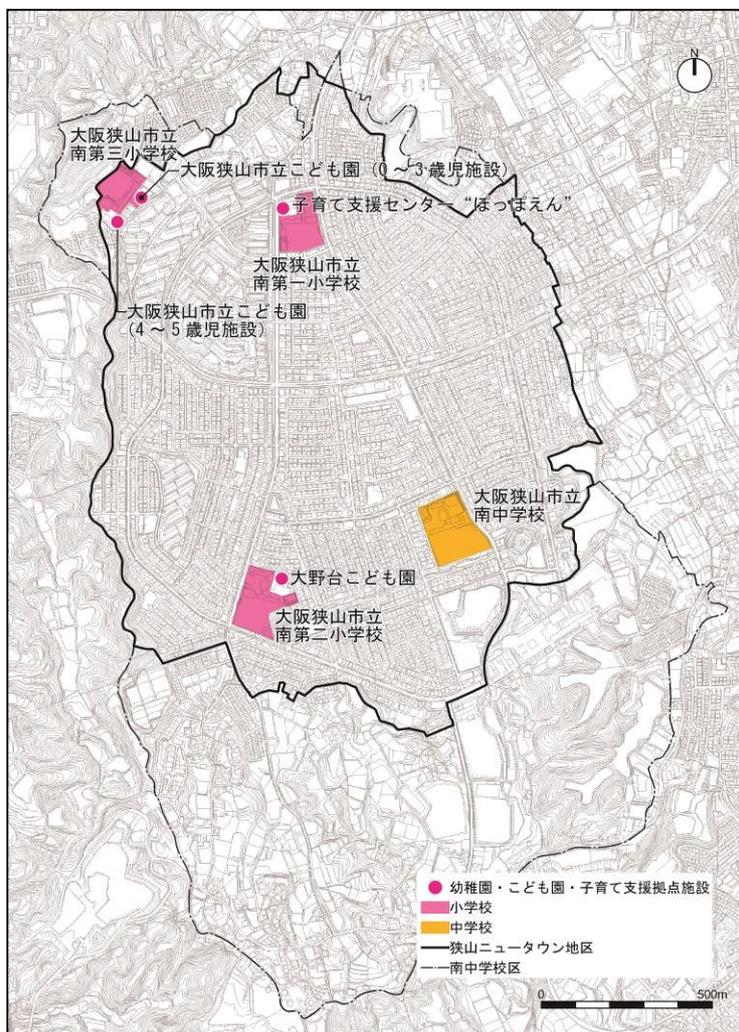
狭山ニュータウン地区は、子育て支援センター“ほっぼえん”やこども園が設置されるなど、子育て環境が充実しています。若い世代には、治安や医療面での安全・安心や、人と人のつながりが評価されています。まちづくり活動の活性化のためには、若い世代の転入促進が不可欠であり、市外の子育て世代に選ばれるために、子育て環境のさらなる充実を図る必要があります。

(1) 子育て支援・教育環境

活かすべき資源（魅力）

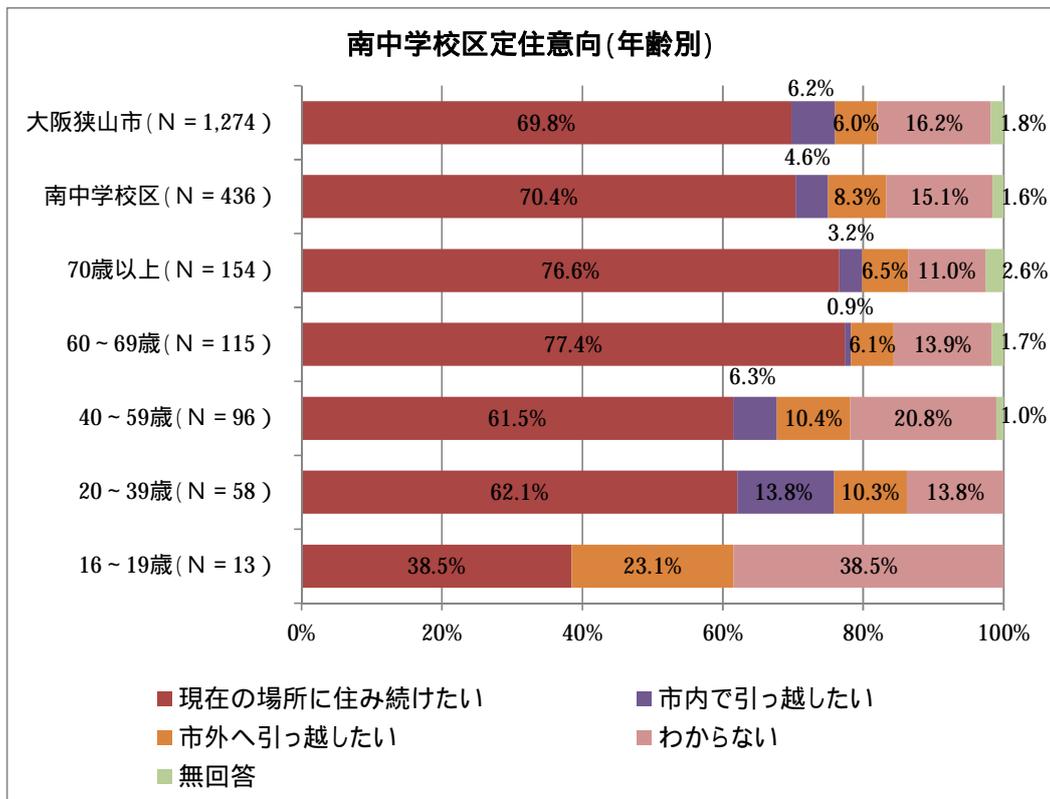
- ・子育て支援センター“ほっぼえん”やこども園が設置され、子育て支援の環境が充実しています。
- ・小中学校へのエアコン設置やトイレ改修など、時代の変化に対応した教育環境の整備が進んでいます。
- ・一度市外へ引っ越したが、「自分が育ったまちで子育てをしたい」と戻ってくる人がいるなど、子育てに適した環境が整っています。

■ 小中学校・こども園・子育て支援拠点施設



対応すべき課題

- ・子育て家庭の状況を踏まえて、子育て支援の環境のさらなる向上に努める必要があります。また、学校施設の長寿命化や老朽化対策とあわせて、ICT環境の整備など時代のニーズに対応した教育環境の整備が必要です。
- ・引っ越したい人に着目すると、20、30歳代の24.1%が、40、50歳代の16.7%が「引っ越したい(市内で引っ越したい+市外へ引っ越したい)」と答えており、全市の12.2%を上回っています。一方で、60、70歳代では、70%を超える人が「現在の場所に住み続けたい」と答えており、若い世代や現役世代の定住志向を高める取組みが必要です。



出典：市民意識調査報告書、平成28年(2016年)3月

3 安全で安心して暮らし続けられる環境

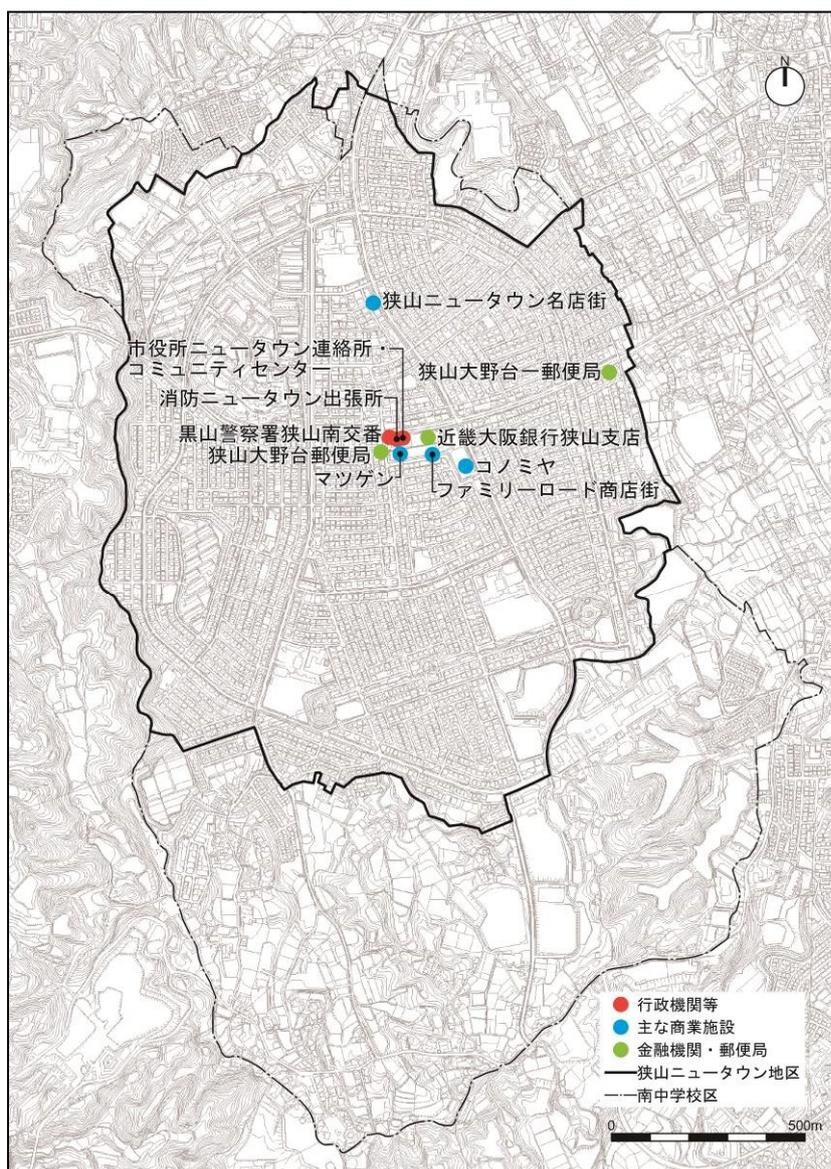
狭山ニュータウン地区は、商業・サービス施設や近畿大学医学部附属病院をはじめとする医療機関や介護施設が立地しており、住民の日常生活を支えています。また、高齢者に対する見守り活動や自治会単位での防災・防犯活動が行われています。近畿大学医学部附属病院の移転への対応など、誰もが安全で安心して暮らし続けられる環境づくりが課題となっています。

(1) 日常生活サービス

活かすべき資源（魅力）

- ・狭山ニュータウン中央交差点付近をはじめ、金剛泉北線（陶器山通り）や狭山河内長野線（いちょう通り）沿道に商業・サービス施設が立地しており、地区住民の生活に必要なサービスを提供しています。

■ 行政機関・金融機関・郵便局・商業施設等





(狭山ニュータウン地区内の商業施設)

対応すべき課題

- ・人口減少や少子高齢化を背景として、西山台三丁目の商業集積地区における空き店舗の発生や用途の変更がみられます。
- ・地区住民の高齢化に伴い、買物弱者への対応等が課題となっており、移動販売や宅配サービス等のサービスが求められています。

(2) 医療・介護・福祉

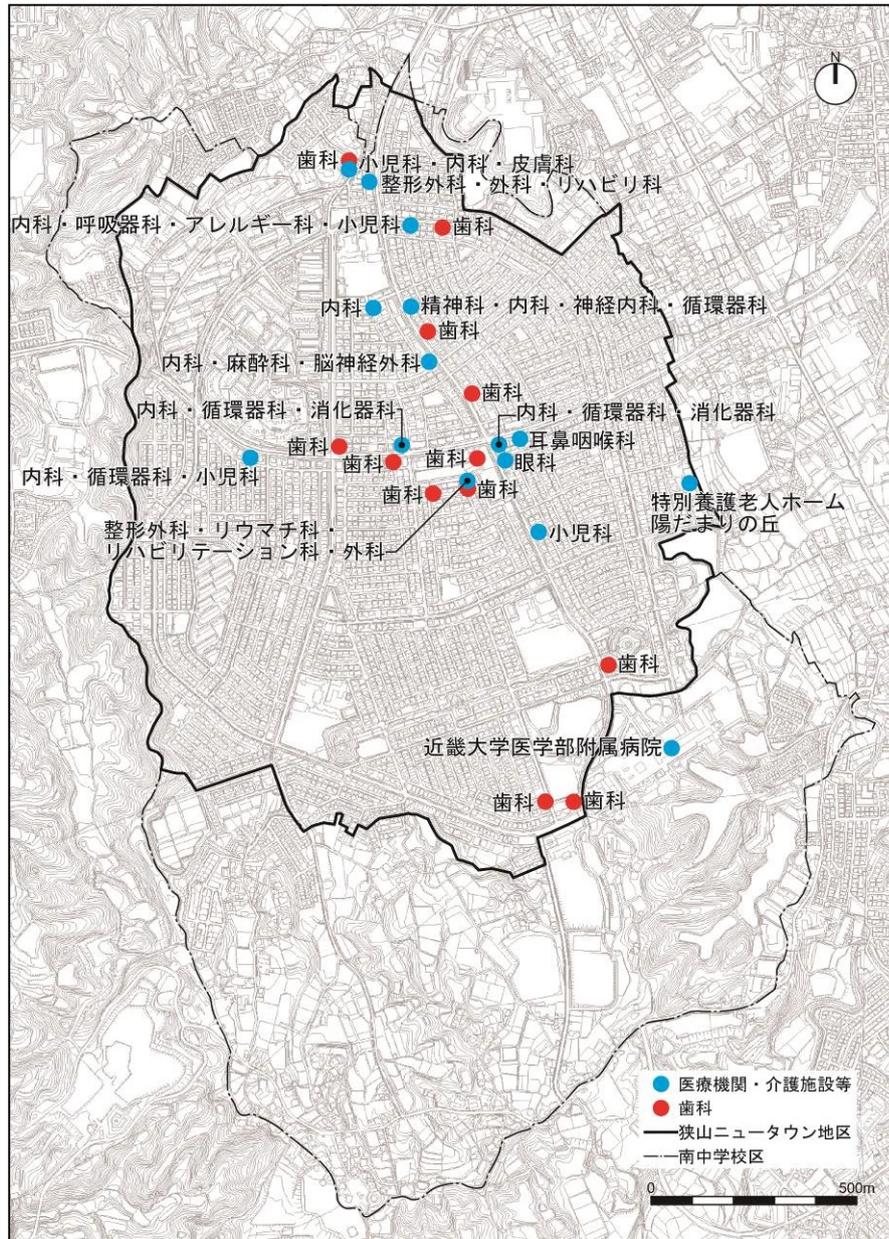
活かすべき資源（魅力）

- ・近畿大学医学部附属病院が立地しており、広域的に高度医療を提供する拠点となっています。
- ・地区福祉委員会や民生委員・児童委員が中心となって、日常的な見守り活動や高齢者への支援が行われています。



(近畿大学医学部附属病院)

■ 医療機関・介護施設等



対応すべき課題

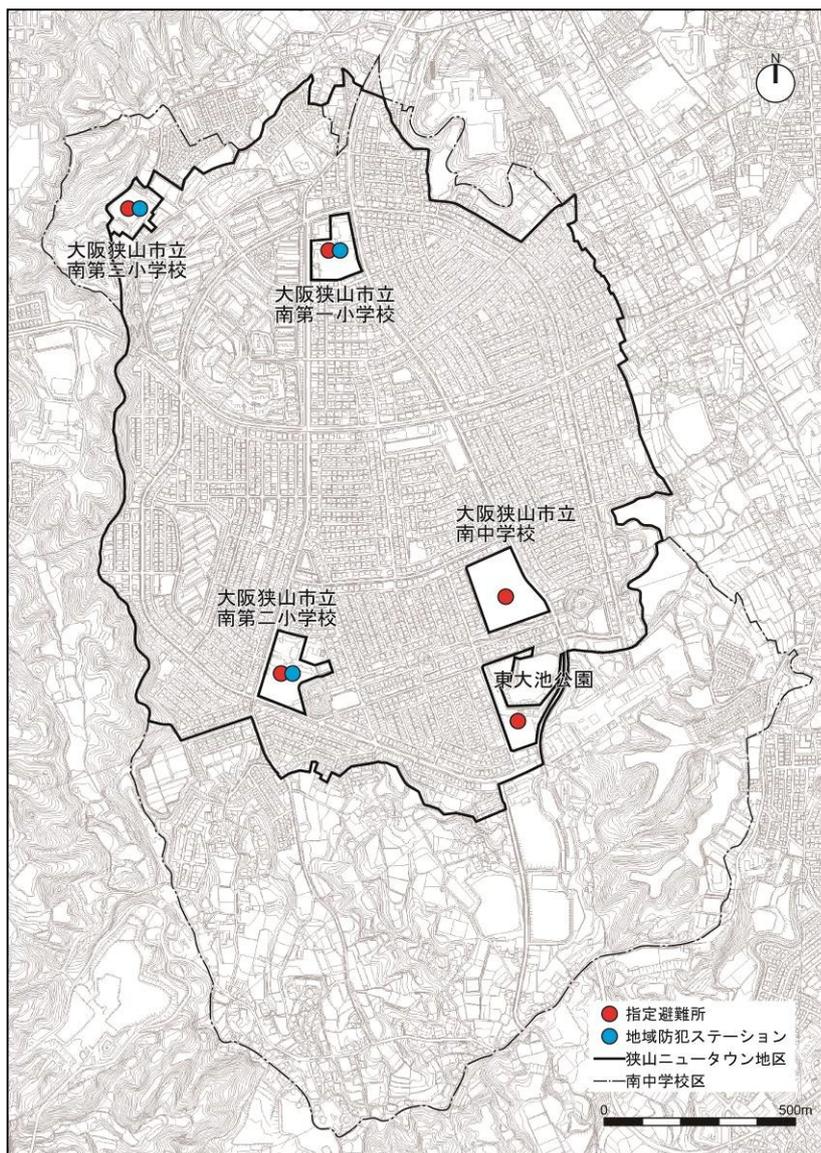
- ・ 近畿大学医学部附属病院の移転後も、安心な医療体制が確保できるよう努める必要があります。
- ・ 住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が求められています。

(3) 防災・防犯

活かすべき資源（魅力）

- ・防災拠点として東大池公園の整備が進んでいます。
- ・自治会単位での自主防災組織が設立されており、自然災害等の非常時に備え、日頃から訓練を行っています。
- ・小学校区ごとに地域防犯ステーションが設置されています。

■ 指定避難所・地域防犯ステーション



対応すべき課題

- ・南海トラフ巨大地震など将来発生が予想される災害に備え、実効性のある訓練を継続して実施する必要があります。
- ・地区内で空き巣の被害が発生しており、特殊詐欺被害の防止とあわせて防犯対策の充実が必要です。

4 計画的な都市空間の維持更新

狭山ニュータウン地区は、道路や公共交通が計画的に整備されており、バス交通の利便性が確保されています。路線バス等の維持や、空き家のまちづくり資源としての活用に加えて、計画的で快適な都市空間の維持更新が課題となっています。

(1) 住宅・住宅地

活かすべき資源（魅力）

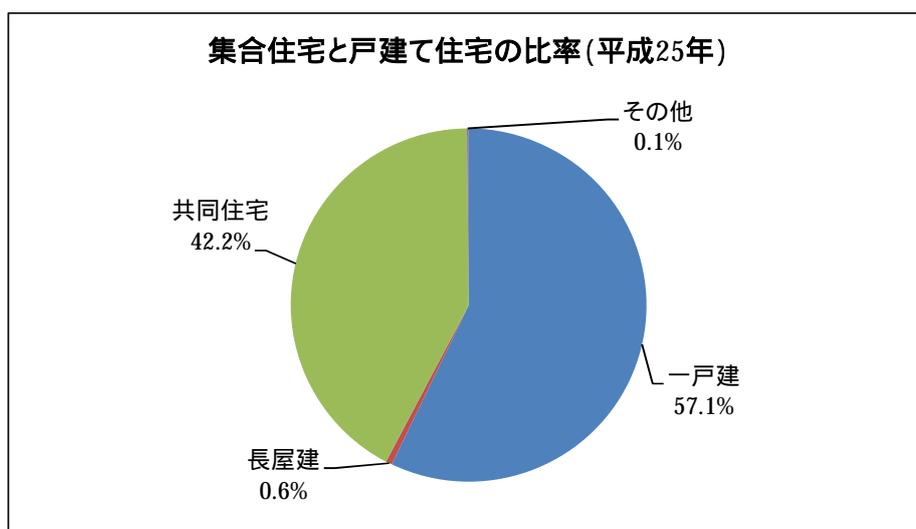
- ・ 計画的に開発された住宅地であり、生活道路や公園等の都市基盤施設が整っているとともに、一定の敷地規模のある戸建て住宅が多く、良好な住宅地としての環境とイメージを維持しています。
- ・ 西山台四丁目・五丁目、大野台六丁目には、府営住宅をはじめ、公団や民間の分譲マンションや賃貸住宅が立地し、多様な住宅ストックを形成しており、ライフスタイルに応じた住宅の選択が可能となっています。



(集合住宅)



(戸建て住宅)



出典：住宅・土地統計調査

対応すべき課題

- ・ 地区住民の高齢化に伴い、利便性の高い地域や介護施設等への転出等が進み、空き家や空き地が増加してきています。
- ・ 空き家や空き地となった敷地は、売却されると、敷地分割がなされ小規模な住宅となり、住宅地における緑の減少や景観・住環境の変化などが生じています。
- ・ 集合住宅における人口減少、高齢化が顕著になっています。

(2) 道路・交通等

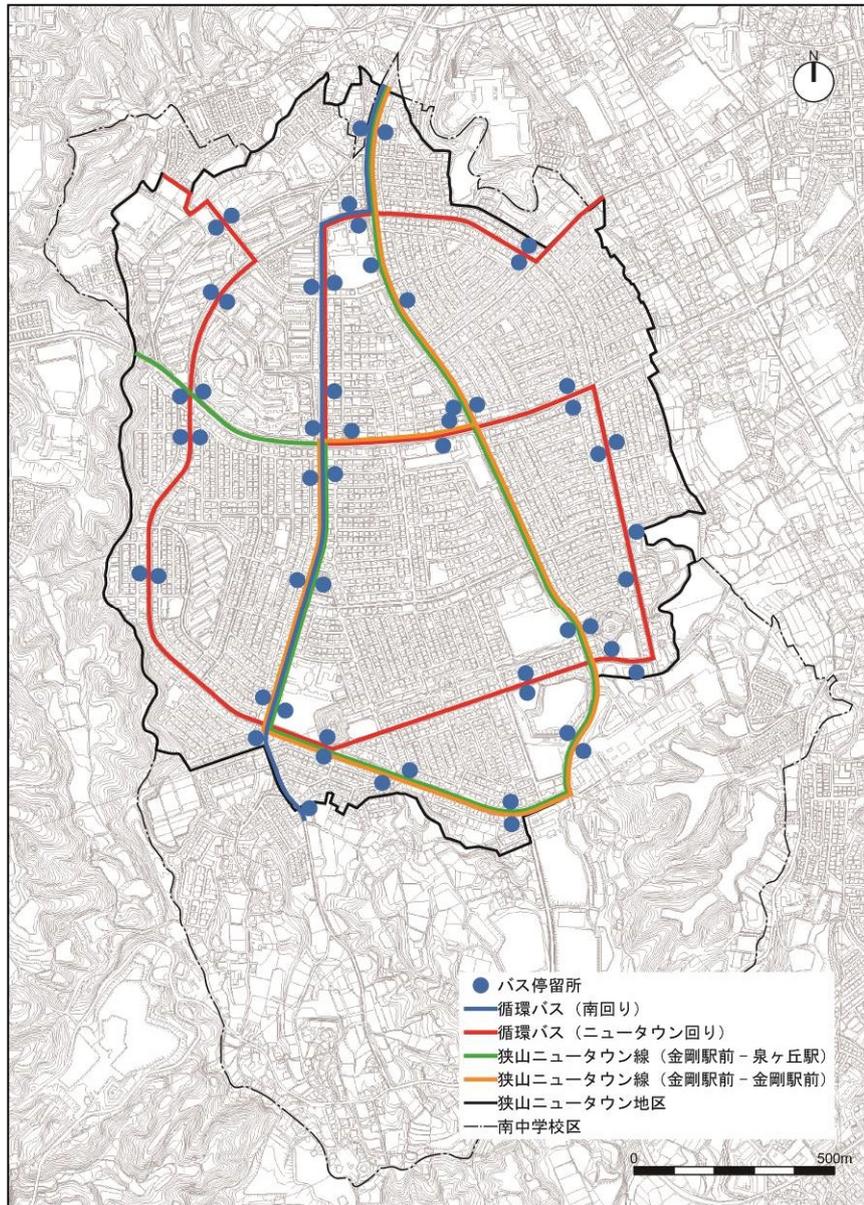
活かすべき資源（魅力）

- ・ 市南部地域の骨格を形成する金剛泉北線（陶器山通り）や狭山河内長野線（いちょう通り）をはじめ、ニュータウン環状線や今熊大野線、その他生活道路等が計画的に整備されています。
- ・ 金剛駅や泉ヶ丘駅への路線バスや循環バスが運行しており、交通の利便性が確保されています。



（幹線道路の景観）

■ 路線バス・循環バス



対応すべき課題

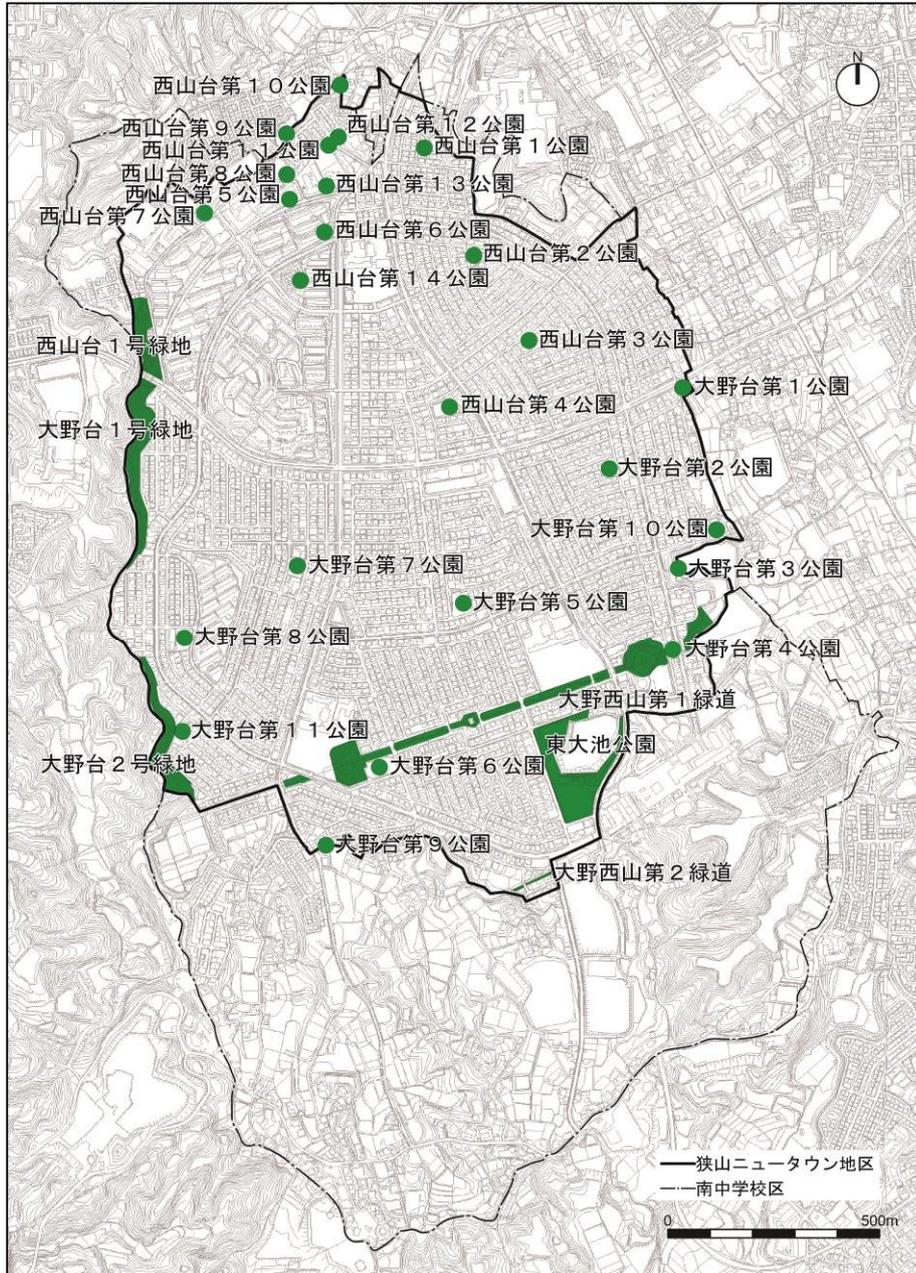
- ・ 開発時に整備された道路等は、老朽化が進んできており、計画的な更新が必要です。
- ・ 重要な交通手段として、路線バスや循環バスを維持するために、利便性の向上や利用促進を図る必要があります。
- ・ 交通安全対策の面から、狭山ニュータウン中央交差点付近の商業施設周辺で発生する車の渋滞が課題となっています。

(3) 公園緑地等

活かすべき資源（魅力）

- ・ 計画的に街区公園が整備されており、ほとんどの範囲が公園の誘致圏内に入ります。
- ・ 幹線道路において街路樹が整備されているとともに、一部には緑道も整備されています。

■ 公園・緑地



対応すべき課題

- ・利用者の年齢層やニーズの多様化に対応した公園の再整備とともに、集い交流する場としての活用が必要となっています。
- ・街路樹が植栽された歩道の一部で、根上がりによる段差が歩行者の通行の妨げとなり、舗装補修が必要な個所があります。
- ・魅力あるまちなみを形成するため、街路樹等のある道路や緑道、あまの街道等の緑の資源をつなぐネットワークの充実に、住民と行政が一体となって取り組む必要があります。



(街路樹の景観)